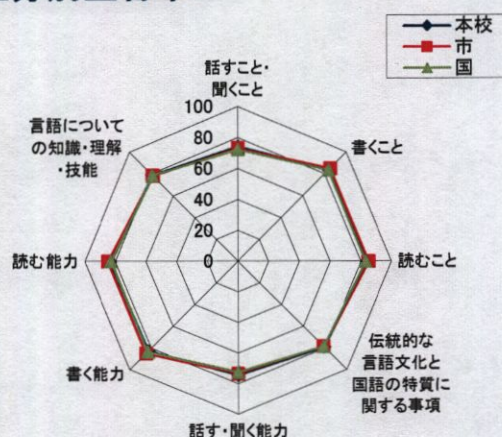


宇都宮市立横川中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

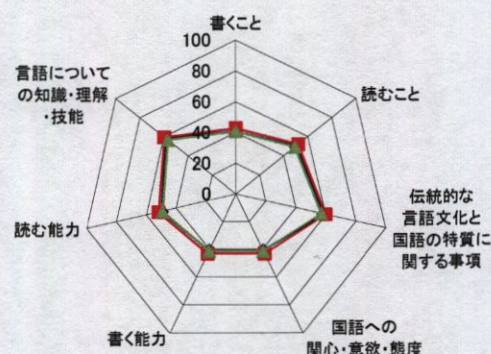
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.2	73.4	72.3
	書くこと	83.8	84.9	83.4
	読むこと	83.7	84.8	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.9	78.5	78.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	74.2	73.4	72.3
	書く能力	82.8	84.9	83.4
	読む能力	83.7	84.8	82.9
	言語についての知識・理解・技能	78.9	78.5	78.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	40.9	43.0	41.0
	読むこと	49.8	51.9	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	58.4	59.7	56.8
観点	国語への関心・意欲・態度	40.9	43.0	41.0
	話す・聞く能力			
	書く能力	40.9	43.0	41.0
	読む能力	49.8	51.9	49.2
	言語についての知識・理解・技能	58.4	59.7	56.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強は大切な」「授業内容を理解しているか」「授業で学習したことは将来役に立つか」という質問に対し、県や全国と比較しても肯定的な意見の生徒が多い。また、授業での文の組み立て方、根拠のある答え方、文章の読み方に関する質問も、肯定的な意見の生徒が多い。
 ●「国語の勉強が好きか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒は県や全国より多かったが、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた生徒も多く、二分化が見られる。また、「今回の問題で、書く問題を最後まで書こうと努力したか」という質問に対し、「解答しなかったり、途中であきらめたりした」と答えた生徒が多く、書く問題の無回答が多いことが課題である。

★指導の工夫と改善

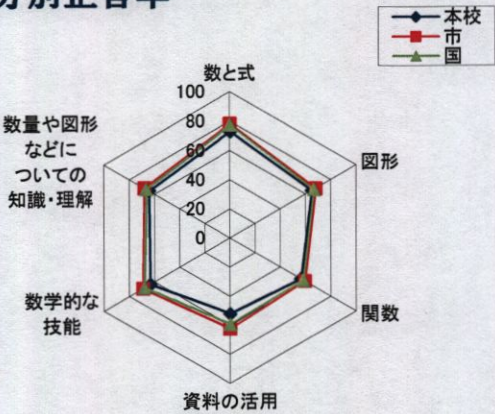
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○基本的な聞き取る力はある、相違点や足りない情報を聞いて理解することができる。 ●自分で表現することを苦手としている生徒が多い。効果的な表現や何を目的とするのかといった話し方の工夫に対し、理解が低い。	・聞き取る力はあるので、話すときに工夫する力を伸ばしたい。そのためには表現するための経験をさせることや例を示すことで、効果的な表現ができるようにしていく。
書くこと	○条件が定まっているなど、材料がそろっているものを文章にすることができる。 ○文章を書き直すなど推敲ができる。 ●自分で課題を選び、考えを書くことができない。 ●無回答が多い。	・根拠を明確にした文章、段落を意識した文章を書くなど、筋道たてて自分の考えが書けるようにしたい。 ・表現技法を工夫して書いたり、語彙力をつけたりすることで、表現を豊かにする。
読むこと	○内容や文脈から理解するなど、基本的な読み取りはできる。 ●見慣れない文体・知らないことばに弱く、経験したことのない問題が苦手である。 ●内容比較して読みとることが苦手。	・様々な作品、特に近代文学や古典文学にふれることで、文体になれる必要がある。 ・要旨は授業でもよく取り扱うが、要旨された文章を比較し、特徴をおさえるなど、文章の比較もする機会を増やしたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率は県・全国と比べて同等であり、基本的な理解力はある。 ●敬語表現、故事成語、ことわざなどの正答率が低く、語彙力に課題がある。	・故事成語、ことわざなど文章の中で出てくることばに注目し、それらを生かして短文を書くなど、語彙力を高める工夫を行う。 ・さらに読書を促し、近代文学、古典文学など普段手にとる機会の少ない読み応えのある本を勧める。

宇都宮市立横川中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

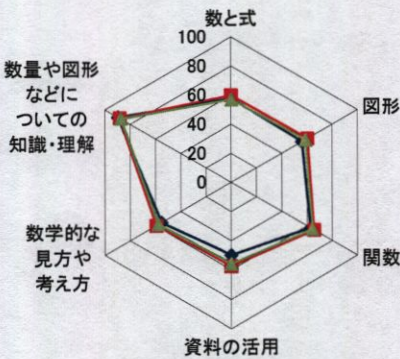
★本年度の国、市と本校の状況
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	72.8	78.0	77.4
	図形	64.7	67.8	66.4
	関数	56.1	59.3	58.0
	資料の活用	51.9	62.2	59.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	63.5	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	64.5	68.2	66.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	57.6	59.8	56.9
	図形	56.0	60.3	58.6
	関数	62.7	65.5	64.4
	資料の活用	50.0	57.5	55.9
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	55.5	59.6	57.9
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解	89.7	88.4	87.5



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○数学の学習は好きであるという生徒の割合は高く、「授業内容がわかる」、「できるようになりたいと思う」、「諦めずにいろいろな方法を考える」などの項目は、高い割合を示している。意欲は十分に感じられる。また、授業中、「もっと簡単に解く方法はないか」、「解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」という項目の割合も高く数学の授業への心構えも前向きである。

●「数学の有用性を感じるか」、「今回の問題への粘り強い取り組み」についての質問の割合がやや低く、主体的・継続的な取り組みが今後の課題と考えられる。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○大小関係を不等式に表したり、移項のしくみなど基本的な事項については理解できている。また、説明記述問題など活用場面でも、比較的良好である。 ●累乗の計算や式の値、一次方程式や連立方程式を解く問題など基礎計算力がまだ不十分である。	・基礎計算力の向上のため、例えば、2年生の連立方程式の学習の前に一次方程式の復習をするなど、学び直しを心がけることは重要なことである。 ・履修の段階では問題ないが、確かな学力として定着するための復習をさらに重視したい。
図形	○底面と高さが同じ円柱と円錐の体積の関係や基本的な証明など基礎的な図形の性質の理解は見られる。 ●作図や展開図の問題など、基本的な図形のかきかた、幅広い図形の見方や考え方が不十分な面が見られる。	・平面図形、空間図形ともに、三角形や長方形などの基本的な図形とのかかわりを考えさせるなど、幅広い見方を培うよう指導したい。 ・証明については、その手順をしっかりと教えることが重要で、スモールステップで指導することを意識したい。
関数	○関数の意味や与えられた事象を読み取ることは比較的理解できている。 ●比例や反比例、一次関数のそれぞれの表・式・グラフの特徴を知るなどその基本的な性質についての理解がやや不十分である。	・関数関係を理解するには、表・式・グラフで関連して考え、それぞれのよさを感じさせることが重要である。関連性を考えさせ、より深い理解につなげたい。 ・グラフから事象を読み取るなど数学を活用する場面での習熟を図りたい。
資料の活用	○資料を表や樹形図に表すことが、読み取りには有効であり、その意義は理解できている。 ●度数分布表、相対度数、中央値など具体的な用語の理解や確率の意味、求め方が不十分である。	・中学校1、2年生の最後に学習する領域である。多くの用語が出てくるため、なかなか定着できないところもある。基礎・基本をさらに重視して指導したい。

宇都宮市立横川中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「毎日朝食を食べている」との回答が95.5%、「毎日同じくらいの時間に起きている」との回答が93.6%と高い。家庭で基本的な生活習慣への意識の高さが伺える。

○「家で自分で計画を立てて学習をしている」の回答が58.1%と県や全国平均を上回っている。また、「家で、学校の復習をしていますか?」が10ポイント上回っている。このことから、家庭学習が定着している傾向が見られる。

●土日の学習時間が2時間以上の生徒は、県や全国平均と同じポイントである。しかし、1時間未満の生徒が32.9%と多い。これまでの「自主学习ノート」の活用や放課後学習相談の充実を図りながら指導していく。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」との回答が97.4%と県や全国平均を大きく上回っている。今後も生徒一人一人が生き生きと活動できるよう好ましい人間関係の育成に努める。

○「自分には、よいところがあると思うか」との回答が67.8%、「学校に行くのは楽しいと思う」との回答が85.8%、「将来の夢や目標を持っていますか」との回答が77.4%と高い。学校生活の中で目標を持ち、明るく前向きに生活している生徒が多い。今後も自己肯定感を高められるような指導を継続していきたい。